

# 鉄道遺産を活かした まちづくりと観光



全ての写真撮影：米山 淳一

かつては鉄道が文化財とはとらえられていなかった。一般に文化財と言えば寺社仏閣、史跡、名勝等が当たり前の時代があった。鉄道は深い愛着をもった人々の私的な世界だったのだ。初めて鉄道を文化財の視点から見直し、調査を行ったのは日本ナショナルトラストで、昭和59年のこと。欧米では既に鉄道や産業遺産の保存・活用が積極的に進められていた。平成に入り文化庁が我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産を近代化遺産と位置づけ全国調査を開始。平成8年登録有形文化財制度を立ち上げ新たな流れが生まれた。現在、歴史的鉄道車両、施設、構造物等は重要文化財や登録文化財となり、保存からまちづくりや観光資源として活用されている。全国や英国の事例を基に、将来に亘る鉄道遺産の保存・活用を提案したい。

④我が国最古の旧長浜駅舎(滋賀県指定文化財) ⑥イギリスの保存鉄道「ブルーベル鉄道」 ③汽車道として再生された旧横浜臨港線(横浜市認定歴史的建造物) ④碓氷第三アーチ橋(国指定重要文化財) ⑤旧佐賀線筑後川昇開橋(国指定重要文化財) ⑥出雲大社駅舎(国指定重要文化財) ⑧国産初産蒸気機関車233号(国指定重要文化財) ⑥若桜鉄道若桜駅構内転車台(国登録有形文化財)とC12形蒸気機関車 ⑧8月10日に復活、東武鉄道SL「大樹」号



よねやま じゅんいち  
講師：米山 淳一 (地域遺産プロデューサー)

1951年 神奈川県生 獨協大学外国語学部英語学科卒、元財団法人日本ナショナルトラスト事務局長、全国で歴史・自然遺産の保存再生に関わった。現在、地域遺産プロデューサーとして各地で歴史を活かしたまちづくりを推進。公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事、一般社団法人日本茅葺文化協会理事、長浜鉄道スクエア名誉館長、日本鉄道保存協会事務局長、獨協大学オープンカレッジ講師。

著書：「地域遺産みんなと奮戦記」(学芸出版)、「歩きたい歴史の町並」(JTB)、「歴史鉄道酔余の町並み」  
「続・歴史鉄道酔余の町並み」(駒草出版)、「光り輝く特急ときの時代」(駒草出版) ほか

日時	7月22日(土) 14時～16時(13時開場)		
場所	獨協大学 天野貞祐記念館大講堂 東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通東武スカイツリーライン「獨協大学前(草加松原)」西口徒歩5分 *車での来校はご遠慮ください		
受講	無料 定員500人	当日先着順 事前申込不要	共催：草加市

2017年度

## 獨協大学オープンカレッジ特別講座

獨協大学エクステンションセンター

☎048-946-1678

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1